

関西支部第10回学生研究論文発表会の開催報告

関西支部運営委員 森田裕之（もりた ひろゆき）
大阪府立大学

毎年恒例となりました関西支部主催の第10回学生論文発表会を、去る2015年3月7日（土）に、大阪府立大学なんばサテライト教室において開催いたしました。この発表会は、経営情報関連の研究を行っている学部、修士・博士前期課程、ならびに博士後期課程の学生に、勉学・研究の成果を発表する機会を与え、質疑応答を通じてよりよい研究へと発展させるための一助とし、優秀な発表を選定して表彰することにより、経営情報関連分野の研究・教育の発展に資することを目的に開催しております。早いもので、平成17年度に第1回目を開催してから、今年度で10回目の記念すべき開催となりました。今回は卒業論文2件、修士論文3件、博士論文1件の応募があり、発表者とタイトルは以下の通りでした。

発表者の氏名とタイトル

高木崇（神戸大学経営学部） “抵抗”“正当化”を繰り返すサブカルチャーの制度化プロセス：ストリートダンスの社会物質的実践に着目した歴史的分析
吉松寛道（日本大学生産工学部） 一挙両得の経営～企業成長と同族経営の両立に関する実証研究～
Monang Gultom（兵庫県立大学応用情報科学研究科） Development of a Disaster Prevention Application for Android Mobile Devices Based on Hazard Maps, GIS and GPS in Japan
田島大侑（立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科） フィリピンにおけるソーラー製品の普及戦略：コンジョイント分析によってエンドユーザーのニーズを掴む
趙峻輝（兵庫県立大学応用情報科学研究科） 地方自治体のICT企業誘致施策の現状とその有効性の検証
門脇一彦（神戸大学大学院経営学研究科） 技術進化と技能—ソフトウェア開発領域の技能の考察

発表時間は、学部の学生は1人あたり発表10分質疑5分、修士の学生は1人あたり発表15分質疑

10分、博士の学生は1人あたり発表20分質疑10分と定めて、研究内容についてのプレゼンテーションと活発な質疑応答を行いました。また、各発表者には、事前に研究内容の予稿を4ページで作成していただき、予稿集を発行いたしました。

各発表者は指導教員から推薦を受けているだけあって、どの発表も素晴らしく、分析の内容や論理展開においては、まだ精緻を欠くところもありましたが、論文のアイデアなどは学生ならではの非常に興味深い点が多々感じられました。発表の評価については、関西支部の運営委員5名による審査委員会を設け、論文の内容、プレゼンテーション、質疑応答など総合的に判断して、最優秀賞を吉松寛道君に、また優秀賞を門脇一彦君に決定いたしました。

参加者は、学生、教員、企業の方など幅広く、合計18名に参加いただき、発表会終了後は場所を変え、発表者とさらに深い議論を行うことができました。今年度も第11回の学生研究論文発表会を開催予定ですので、全国から多数のエントリーをいただけるよう、お待ちしております。



当日受賞者を囲んでの記念写真